

弘前

学術交流で新時代を
弘大理工と函館高専
協定締結記念シンポ

2016年3月の弘前大学大学院理工学研究科と函館工業高等専門学校との学術交流協定締結を記念したシンポジウムが17日、弘大理工学部で開かれた。教員や学生ら約100人が、両校の教授らによる研究内容の紹介に聞き入った。

弘大理工学研究科の加藤博雄科長と函館高専の但野



史教授が「北の時代到来の予感」と題し、原子レベルで物質を解析できる施設で、東北の大学などが誘致を目指している「放射光施設」を紹介。新素材の開発につながる解析例を示した後、物質の状態が変化する「相転移」という専門用語を使って「函館高専と弘大理工で、日本の『相転移』を起こそう」と呼び掛けた。

また、研究者4人が自然エネルギーやイカ墨の応用、青函地域の地震活動などに関する研究をそれぞれ報告した。(鎌田秀人)

基調講演する弘大の宮永教授

弘大の宮永崇
基調講演で

茂校長のあいさつに続き、同高専第1期生の葛西憲之市長が「学術交流を通じて、多様な人材を輩出してほしい」などと激励した。

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp